

東日本大震災 台風12号・15号災害

特集

—未曾有の大震災救援を振り返る—



海岸から数キロまで津波が到来。家だけでなく大量の車も津波にのみ込まれました ～宮城県南三陸町（3/27）～

3月11日に発生した東日本大震災は死者・行方不明者合わせて約2万人という未曾有の被害をもたらしました。

また、近畿や東海地方を中心に記録的な豪雨となった台風12号・15号も各地で甚大な被害をもたらしました。宍粟市社協では地震発生の翌日から全社協、近畿ブロック、兵庫県社協、西播磨ブロック市町社協と連携し、宮城県を中心に被災者支援を行いました。今月号では、被災地での支援活動を振り返るとともに、今後の復興に向けた取り組みを考えます。

地震発生の翌日から被災地を支援

地震発生翌日の3月12日から義援金を募集し、被害の甚大さから本会の本部・各支部に多くの方より多額の義援金を寄せていただきました。

東日本大震災や台風12号豪雨災害で寄せられた義援金は、11月末で495万3718円（197件）にのぼり、中央共同募金会へ送金しました。

救援物資として兵庫県災害対策本部からの呼びかけで、被災された方々の寒さ対策のため防寒着（コートやジャンパー）を募集し宮城県へ届けました（総計231着）。

また、津波が襲った沿岸部では海水が引かず「水害のような状態」という報告を受け、21年台風9号による豪雨災害で本会が活用した機材（スコップ、一輪車等）を宮城県石巻市へ提供しました。

6月には仙台市のNPOから



救援活動に必要な一輪車等の機材いち早く被災地へ送る ～宍粟市社協本部（3/25）～